

令和6年度工学部数理データサイエンスAI学修教育プログラム自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況	初年度としては良好	プログラム開始初年度である令和6年度は、工学部の収容定員1660人(入学定員430人)に対して92名が本プログラムを受講した。収容定員に対する履修率は約6%であることから要改善である。しかし、対象学生が1年生のみであり、1年生の入学定員430名に対する割合で考えると実質的な履修率は21%であること、工学部の全コースの学生が履修していることを考えると、履修状況は初年度としては良好と判断した。
学修成果	概ね良好	令和6年度に実施したプログラム科目のシラバスを確認したところ、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)の必要要件である3つの基本的要素およびモデルカリキュラム対応箇所の内容を満たしていることが確認できた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	概ね良好	全学で実施する「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を実施しており、令和6年度に実施したプログラム科目における学生に対して授業の理解度について尋ねた項目の平均点は5点満点中約3.5点であり、平均よりやや高い値となった。初年度プログラムの成果としては、平均的評価ではあるが概ね良好であると判断した。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	概ね良好	全学で実施する「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を実施しており、令和6年度に実施したプログラム科目における学生に対して授業の関心および満足度について尋ねた項目の平均点は5点満点中前者が約3.5点、後者が約3.4点であり、こちらも平均よりやや高い値となった。初年度プログラムの成果としては、後輩等他の学生への推奨度についても高いのではないかと推察される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	評価対象外	プログラム開始初年度であり、進捗状況としては評価できないが、令和7年度についても昨年度同様全コースの学生の必修科目となっている後期開講科目の「データサイエンスⅡ」の授業中に、本プログラムについての案内を積極的に行い、履修率向上に向けて取り組む予定である。

自己点検・評価の視点	評価総括	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	今後実施予定	令和6年度開設のため修了者がまだ出ていないが、本プログラム修了者に対して、卒業時アンケート等で、履修した内容が進路に役に立ったか等を調査し、分析することで、次年度の授業改善に活用する予定である。 また、工学部では、「実践ソフトウェア開発演習」で実際にDX業務を行っており、企業人の方を講師として迎えるなど、産業界とのつながりも深いことから、企業の講師等との意見交換を通じた教育プログラムの改善を行う予定。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	今後実施予定	前述のとおり、工学部では、「実践ソフトウェア開発演習」で実際にDX業務を行っており、企業人の方を講師として迎えるなど、産業界とのつながりも深いことから、随時企業の講師等との意見交換を通じた教育プログラムの改善を行う予定。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	概ね良好	プログラムの導入にあたる授業科目である「データサイエンスⅡ」で、当該学問分野の応用例や社会的意義を平易な言葉で解説し学修の動機付けをしている。 これに続く専門分野の各授業科目では、応用システム構築の基礎となる理論と技術を講述しており、工学を志す学生にとって難易度が高く達成感を得られる内容としている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	概ね良好	自己点検・評価として、授業科目ごとに学生の「学びの振り返り・授業改善のためのアンケート」(授業アンケート)を行っているだけでなく、毎年度三重大学大学院工学研究科教務委員会が中心となって各授業科目の成績分布等を含めて一つ一つの授業を分析し、本学部のすべての教員が参画する教授会・教員会において情報共有し、意見交換する機会を設けることで、学生にとってより分かりやすい授業となるよう改善に取り組んでいる。